

岡部定一郎「福岡城寸描」(38)

黒田24騎小傳(11)

井上 周防之房

生没年 : 1554~1634年
位置付 : 大譜代(八虎の一人)
禄 高 : 1万6000石
別 名 : 弥太郎、九郎右衛門、周防守、道柏

今年(2012年)は、長崎街道開通400年に当たる。黒田家は、筑前六宿として、江戸~上方より長崎へ遊学する各藩の御用の道として、通りやすく道づくりをした。井上之房は、筑前領の入口黒崎宿の当主、1万6000石を拝領していた人物である。現在のJR黒崎駅の北側に位置する小高い山に城の跡がある。ここが道柏山黒崎城で、井上之房の居城である。

生まれは姫路近辺の松原郷。黒田官兵衛の父職高に小姓として仕え、黒田家の基礎づくりに貢献した。職隆の死後、官兵衛に仕えて、豊前時代6000石を拝領した。文禄・慶長の役にも参戦、関ヶ原の戦いでは如水に従って九州で戦い活躍する。

筑前入国後、1万6000石を拝領し、福岡六端城の一つ黒崎城の城代となる。

後半、同輩栗山大膳と共に、2代目忠之の黒田騒動にからみ黒田家を支えるが、やがて、井上くずれにあつて無子断絶となる。しかし、黒田家は、幕末期に、名門 栗山・井上両家ゆかりの子孫に僅かな禄高を与え、家名を名乗らせた。



家紋



舞鶴

井上周防之房の博多人形(ふくおかフィナンシャルグループ1階に展示)